

沼津工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	保健体育 I	
科目基礎情報							
科目番号	2022-693			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	物質工学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	佐藤 誠,渡邊 志保美						
到達目標							
スポーツの実践を通じ、自らの能力に見合った目標を設定し、他者と協力して行動していく中で人間力の向上を図ることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	トレーニングができる	積極的にトレーニングできる		トレーニングができる		トレーニングができない	
評価項目2	各種の技能を習得できる	各種の技能を習得できる		技能を習得できる		技能を習得できない	
評価項目3	知識を習得できる	範囲内の知識をすべて理解できる		範囲内の知識を概ね理解できる		範囲内の知識を理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
【本校学習・教育目標（本科のみ）】 5							
教育方法等							
概要	応急処置について理解し実践できるようになる。さまざまな運動種目の安全な実施についての知識を得て健康や安全に配慮して生活できるようにする。さまざまな運動種目の基礎技能を習得する。						
授業の進め方・方法	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配付する。各項目の技能習得を60％、授業への参加率、参加態度を40％として評価する。60点以上を合格とする。						
注意点	1.評価については、評価割合に従って行います。ただし、適宜再試や追加課題を課し、加点することがあります。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		今年度の授業概要を理解し、自分の目標設定ができる。		
		2週	安全教育		緊急時の応急処置ができる。		
		3週	安全教育		さまざまな怪我に対する応急処置ができる。		
		4週	バレーボール		さまざまなパスに関する技能を習得する。		
		5週	バレーボール		三段攻撃の技能を習得する。		
		6週	バレーボール		スパイクの技能を習得する。		
		7週	バレーボール		基礎技能を用いて試合形式を実践する。		
		8週	ハンドボール		さまざまなパスの技能を習得する。		
	2ndQ	9週	ハンドボール		さまざまなシュートの技能を習得する。		
		10週	ハンドボール		少人数でのオフェンス、ディフェンスに関する技能を習得する。		
		11週	ハンドボール		基礎技能を用いて試合形式を実践する。		
		12週	ソフトボール		さまざまな投球や捕球の技能を習得する。		
		13週	ソフトボール		バントの技能を習得する。		
		14週	ソフトボール		バッティングの基礎技能を習得する。		
		15週	ソフトボール		基礎技能を用いて試合形式を実践する。		
		16週	バスケットボール		ドリブルとシュートの技能を取得する。		
後期	3rdQ	1週	バスケットボール		レイアップシュートの基礎技能を習得する。		
		2週	バスケットボール		オフェンスとディフェンスの基礎技能を習得する。		
		3週	バスケットボール		オフェンスとディフェンスの基礎技能を習得する。		
		4週	バスケットボール		基礎技能を用いて試合形式を実践する。		
		5週	トレーニングの原則と運動処方(講義)		トレーニングの効果的な方法と運動処方に関しての知識を学習する。		
		6週	持久走		ペース走を学習する。		
		7週	持久走		距離走を学習する。		
		8週	持久走		距離走を学習する。		
	4thQ	9週	ラケットスポーツ		バドミントンと卓球の基礎技能を習得する。		
		10週	ラケットスポーツ		バドミントンと卓球の基礎技能を習得する。		
		11週	サッカー		パスとボディコントロールについて学習する。		
		12週	サッカー		パスとボディコントロールについて学習する。		
		13週	サッカー		シュートの技能について学習する。。		
		14週	サッカー		オフェンスとディフェンスの基礎技能について学習する。		
		15週	サッカー		基礎技能を用いて試合形式を実践する。		
		16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的 能力	態度・志向 性(人間力)	態度・志向 性	態度・志向 性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	前1,前13	
				自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	2	前13	
				目標の実現に向けて計画ができる。	2	前13	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	前13	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	前13	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	前13	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	前13	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	前13	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	前13	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	前13	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	前13	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	前13	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2	前13	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	前13	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	前13	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	1	前1	
その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	1	前1					
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	1	前1					
コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	1	前13					
評価割合							
	試験60	発表	相互評価	態度20	ポートフォリオ	その他20	合計
総合評価割合	60	0	0	20	0	20	100
基礎的能力	30	0	0	20	0	20	70
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0